



# 行橋市【福岡県】

## 文化財を活用したまちづくり基本構想

- 策定年月：平成6年3月 ■ 人口：73,157人 ■ 面積：70km<sup>2</sup>
- 担当課：行橋市教育委員会文化課（平成30年3月現在）



行橋市は古代より旧豊前国の中心地域として栄え、多くの文化財がある。この豊かな歴史とそれを育んだ自然（水、緑）の保存と活用の望ましいあり方を検討し、『躍動とやすらぎのまち』を構成することを目的として策定した。

### 5 歴史文化を表す つのキーワード

自然と歴史の調和、特色ある古墳と古代の遺跡  
古代と中世の山城、近世偉人と文化財、戦争遺跡

#### 課題

- ・ 調査や整備が進んでいる文化財が少ない
- ・ 行橋が古代に栄えた地域というイメージに乏しい

#### 保存活用方針

- ・ 市内の特色ある自然や文化財をまちの個性や風格の形成に活用する
- ・ 遺跡を住民の身近な憩いの場や学習の場として整備

## 保存活用のための取り組み

### 御所ヶ谷神籠石整備

平成5年より遺跡の調査を行い、平成27年から整備を開始した。石壁の修復や遊歩道整備を進め、道標や説明板を設置した。県指定天然記念物のヒモヅルや豊富な樹種を自然形式の植物園として活かし、史跡と自然のフィールドミュージアムを目指す。



### 稲童1号掩体壕整備

稲童地区に残存する掩体壕のうち1基を公有化した。発掘調査の成果を踏まえて爆弾穴などの遺構を明示したほか説明板を建て、史跡公園として整備している。平成29年度には同地区に所在する空襲時の弾痕が残る煉瓦塀を同史跡に移設し、展示している。



### 馬ヶ岳城跡整備

馬ヶ岳城跡来訪者の利便性向上のために駐車場整備や説明板や道標の設置を行った。登山口には簡易トイレを設置した。登山道は一部に階段や暗渠を設け、歩きやすいようにしている。道中には行橋市内を一望できる展望台も整備している。

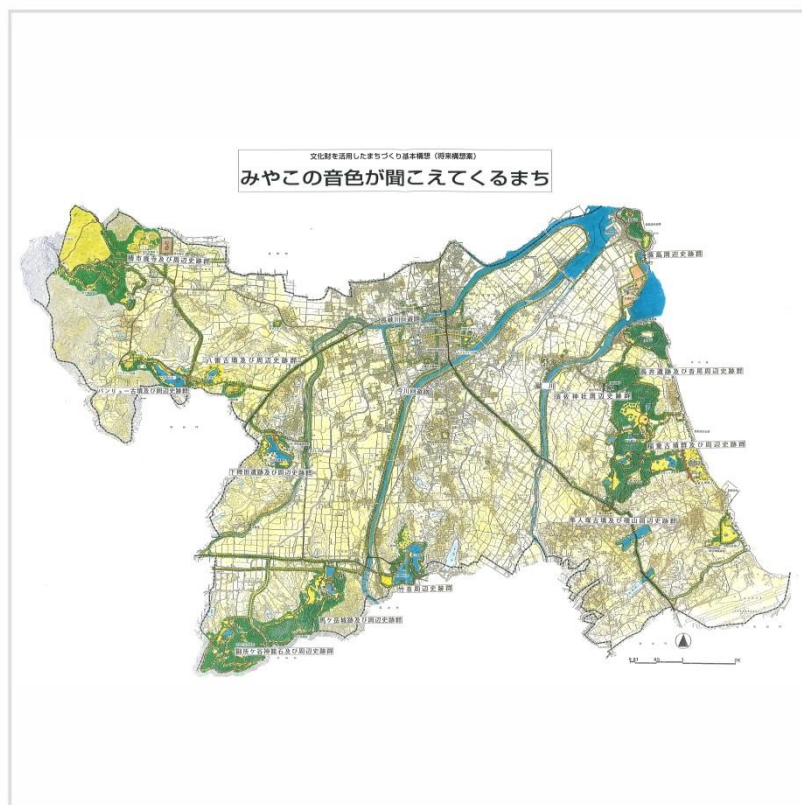


### 文化財説明板の設置

市内各地に所在する文化財に説明板を設置した。盤面が劣化したものは、内容を精査し文章を改訂した上で修繕している。また、各校区にはその校区の歴史を解説した説明板も設置している。



## 将来構想案



行橋市は古代には豊前国の中心であり、それを示す数多くの遺跡があり、中世以降も、魅力ある史跡や文化財に恵まれている。本構想はこの豊かな歴史（史跡・文化財）とそれを育んだ自然（水と緑）の保全と活用について検討し、市民が郷土に誇りと愛着を持ち、来訪者が魅力を感じるまちづくりを進めることを目的として策定した。

### ストーリー

- ・史跡自然ゾーン  
自然と史跡を一体的に保全し、史跡の復原整備を進め、フィールドミュージアムとする。
- ・史跡海浜ゾーン  
自然と共に残る古墳群の調査と保全を進め、稲童古墳群は史跡と自然を核とした公園とする。
- ・水辺回遊ゾーン  
今川、長峡川、舟路川の整備を進め、遊歩道と市中心部の史跡とのネットワーク化を図る。

## 策定後の成果（見込まれる効果）

### ① 史跡訪問者数の増加

御所ヶ谷神籠石や馬ヶ岳城跡などに駐車場やトイレを設けたことで訪問者が増加した。また、遊歩道整備や道標を設置したことで訪問者が快適に散策できるようになった。登山口等にパンフレットを設置し、消費部数を形状することでおおよその来訪者数を把握している。消費部数は各所で年間約900部である。



### ② 観光部局との連携

観光部局が発行する観光パンフレットに市内の歴史について紹介・説明文を掲載している。また、観光部局が史跡を利用したイベントを主催することが恒例となってきた。近年ではVRやARといった技術を史跡に利用するよう試みられ、稲童1号掩体壕では軍用機が格納されている様子が再現された。



### ③ 学校教育との連携

小学校からの要望で市学芸員が学校におもむき歴史の授業を行ったり、実際に土器に触れてもらったりして地域の歴史・文化に親しみを持ってもらっている。また、古墳の石室見学や掩体壕を利用した平和学習など体験型の授業の要望も出るようになった。

